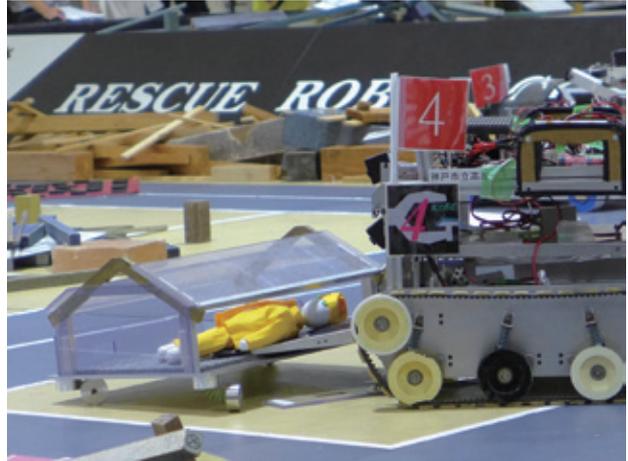




レスキューロボットコンテスト

レスキューロボットコンテスト実行委員会

レスキューを題材とし、人材育成、科学技術、社会啓発のすべての要素を兼ね備えたユニークなロボットコンテスト



■レスキューロボットコンテストの概要

「レスキューロボットコンテスト」(略称「レスコン」)は、災害救助を題材としたロボットコンテストであり、人材育成とともに、防災や災害対応に関する社会啓発で科学技術の裾野を広げ、そこからレスキュー工学などの科学技術が将来高度に発展することを願って毎年開催されています。参加チームは、高校生、高専生、大学生、社会人と様々です。

競技は地震で被災した市街地の1/6の模型である「実験フィールド」内で行い、この中に要救助者を模擬したレスキューダミー(愛称「ダミヤン」)が配置されています。また、二次災害防止のための立ち入り制限を想定した、直接目視ができない遠隔操作が求められます。参加チームは自ら製作したロボットによりダミヤンをなるべく早くかつやさしく救出しなければなりません。

■レスコンの特徴

(1)他チームとの勝負ではなく、自由な発想でレスキューに挑む

自由な発想を促すため、競技規定ではロボットに関する制限は極力少なくしています。競技では2チームが同時に行いますが、他の多くのロボットコンテストのように相手チームとの勝敗を競うのではなく、あくまで全参加チームの中でいかによりよいレスキュー活動を実施するかで競い合います。

(2)「やさしさ」を測るセンサ付きレスキューダミー「ダミヤン」

要救助者へのダメージを定量的に評価するために、各種センサを内蔵した「ダミヤン」を導入しています。

(3)レスキュー活動を補完する「プレゼンテーション」「作戦会議」

レスキュー活動を始める前に、参加チームはまず「プレゼンテーション」として製作してきたロボットや救出戦略のアピールを行い、次に「作戦会議」でヘリテレカメラ(フィールドを上空から撮影するカメラ)を介して初めて見るフィールドの状況から、実際の災害現場と同様に臨機応変に救助活動の計画を立てます。

(4)きめ細かな賞選考

最も権威あるレスキュー工学大賞は、「コンセプト」「技術力」「組織力」を書類審査段階からきめ細かく評価します。必ずしも

競技ポイントが1位のチームに与えられるわけではありません。

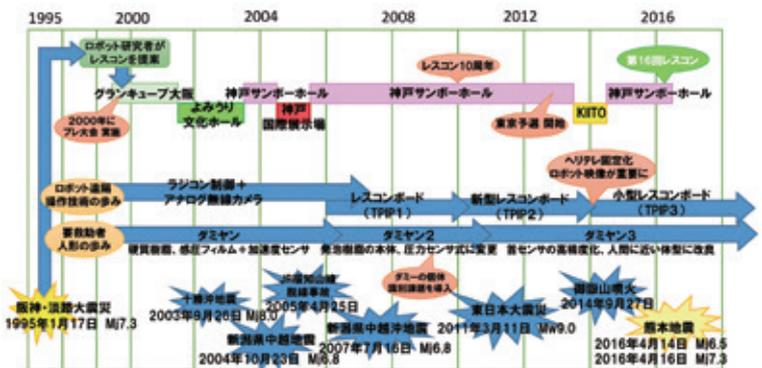
(5)観客への配慮

科学技術の裾野を広げるため、観客への配慮を十分に行っています。プロのMCに依頼し、映像・音響にも一定のクオリティを確保するなど、数あるロボコンの中でも特に演出にこだわっています。また競技会とは別に、工作教室やロボット操縦体験、各種展示をとりそろえた「あそぼう!まなぼう!ロボットランド」を同時に開催しています。

■レスコンの経緯と歴史

レスコンのアイデアは、1995年の阪神・淡路大震災を契機とするレスキューロボットの研究の中から生まれました。1999年にレスコンの原形が提案されてロボフェスタの公認競技となり、プレ大会を2000年に、第1回競技会を2001年にロボフェスタ関西の中で実施しました。第2回以降はロボフェスタから独立し、第3回までは大阪で、第4回以降は神戸で開催してきました(第13回から東京でも予選を実施)。

レスコンは今年で第16回目となりましたが、「レスコンを見たり、参加したりした子ども達が大きくなった時代には、もっと災害に強い世の中になっていなければならない」という思いを込め、私たちレスキューロボット実行委員会は今後も活動を続けていきます。



阪神・淡路大震災を契機に始まったレスコンの歴史

お問い合わせ先

一般社団法人アール・アンド・アールコミュニティー
【住 所】 兵庫県神戸市長田区長楽町4-2-4

【担当役職・氏名】 代表理事/レスキューロボットコンテスト実行委員長 横小路 泰義 (神戸大学 教授)
【電話番号】 080-6126-6197
【E-mail】 office@rescue-robot-contest.org